| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | ＊成人急性期看護学実習（2019 年度入学生） | | | | | 単位 | 3 |
| 履　　修 | 必修 | 関連資格 | 高一種免(看護) 養教一種免 | | | ナンバリング | NU31314J |
| 開講年次 | 3～4 | 開講時期 | 後期・前期 | 該当DP | DP2-1 DP3-1 DP3-2 DP4-1 DP4-2 DP4-3 DP5-1 DP5-2 | | |
| 担当教員 | 髙橋　甲枝、財津　倫子、飯野　祥之 | | | | | | |
| 授業概要 | 【実務家教員担当科目】<br>急性期病院にて看護師経験を有し、消化器外科、整形外科、呼吸器外科、心臓外科等にて臨地実習の指導経験をもとに講義を行う。<br>1. 急性期・回復期にある患者の特性を理解し、術前から術後の過程において、患者およびその家族に応じた看護を実践できる能力を養う。<br>2. 急性期の看護の実践を通して、生命の危機的状況とその後の回復過程を知り、早期回復および障害に応じた生活の自立に向けて援助できる能力を養う。 | | | | | | |
| 学生が達成すべき行動目標 | 1. 急性期・回復期にある患者を総合的に理解することができる(2-1)。<br>2 . 急性期・回復期にある患者・家族と援助的人間関係を築くことができる(5-1、5-2)。<br>3 . 急性期・回復期にある患者の看護上の問題を明らかにし、看護過程の展開を行うことができる(2-1)。<br>4 . 受持ち以外の患者に対して、生活の援助技術及び診療に伴う援助技術を実践あるいは見学することで、看護実践能力を高めることができる(4-2)。<br>5 . 手術室、集中治療室などの実習を通して、患者を取り巻く状況や看護の役割について理解することができる(5-2)。<br>6 . 医療チームにおける看護の役割や機能を理解し、チームの一員としての望ましい協働のあり方について考えることができる(3-2)。<br>7 . 継続看護の必要性及びそのために活用できる社会資源について理解することができる(3-2)。<br>8 . 急性期・回復期にある患者および家族への援助を通して、自己の看護観を深めることができる(3-1, 4-3)。<br>9 . 看護専門職としての責務を認識し、倫理的配慮に基づいた行動ができる(4-1)。 | | | | | | |

達成度評価

| 評価と評価割合／評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 発表(口頭、プレゼンテーション) | レポート外の提出物 | その他 | 合計 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総合評価割合 | 0 | 0 | 46 | 0 | 0 | 54 | 100 | |
| 知識・理解（DP1-1） | | | | | | | | |
| 知識・理解（DP1-2） | | | | | | | | |
| 知識・理解（DP1-3） | | | | | | | | |
| 知識・理解（DP1-4） | | | | | | | | |
| 思考・判断（DP2-1） | | | 28 | | | 0 | 28 | |
| 思考・判断（DP2-2） | | | | | | | | |
| 関心・意欲（DP3-1） | | | 2 | | | 0 | 2 | |
| 関心・意欲（DP3-2） | | | 7 | | | 7 | 14 | |
| 態度(DP4-1) | | | 4 | | | 4 | 8 | |
| 態度(DP4-2) | | | 3 | | | 3 | 6 | |
| 態度（DP4-3） | | | 2 | | | 1 | 3 | |
| 技能・表現（DP5-1） | | | | | | 3 | 3 | |
| 技能・表現（DP5-2） | | | 0 | | | 36 | 36 | |
| 技能・表現（DP5-3） | | | | | | | | |

具体的な達成の目安

| 理想的レベル | 標準的なレベル |
|---|---|

| | |
|---|---|
| ・急性期・回復期にある患者を総合的に理解し、患者・家族と援助的人間関係を築くことができる。形態機能を踏まえて、急性期・回復期の疾病を十分に理解したうえで、エビデンスを踏まえたアセスメントのもと、患者の看護上の問題を明らかにし、個別性のある看護過程の展開を行うことができる。<br>・受持ち以外の患者に対して、生活の援助技術及び診療に伴う援助技術を実践あるいは見学することで、看護実践能力を高めることができる。<br>・手術室、集中治療室などの実習を通して、患者を取り巻く状況や看護の役割について理解するとともに、病棟・手術室・ICU での看護の継続性が理解できる。<br>・医療チームにおける看護の役割や機能を理解し、チームの一員としての望ましい協働のあり方について考えることができる。<br>・継続看護の必要性およびそのために活用できる社会資源について理解することができる。<br>・急性期・回復期の実習を通して、自己の看護観を深め、自己の課題を明確にできる。<br>・看護専門職としての責務を認識し、倫理的配慮に基づいた行動ができる。 | ・急性期・回復期にある患者を総合的に理解し、患者・家族と援助的人間関係を築くことができる。また、急性期・回復期にある患者の看護上の問題を明らかにして、看護過程が展開できる。<br>・生活の援助技術及び診療に伴う援助技術を実践あるいは見学することで、看護実践能力を高めることができる。<br>・手術室、集中治療室などの実習を通して、患者を取り巻く状況や看護の役割について理解することができる。<br>・医療チームにおける看護の役割や機能を理解し、チームの一員としての望ましい協働のあり方について考えることができる。<br>・継続看護の必要性及びそのために活用できる社会資源について理解することができる。<br>・急性期・回復期にある患者および家族への援助を通して、自己の看護観を深めることができる。<br>・看護専門職としての責務を認識し、倫理的配慮に基づいた行動ができる。 |

授業計画

| 進行 | テーマ・講義内容 | 授業の運営方法 | 学習課題(予習・復習) | 予習・復習時間(分) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 成人急性期看護学実習は、3 年次後期～4 年次前期までの間に、3 週間指定された病院で実習を行う。<br>【第 1 週】<br>事前学習返却と指導、学内オリエンテーション、 病棟オリエンテーション<br>病棟スタッフへの挨拶、受持ち患者への挨拶、<br>行動計画発表、看護技術の見学・実施<br>計画立案発表、学生カンファレンス<br>【第 2 週】<br>行動計画発表、情報収集、計画立案発表、<br>看護技術の見学・実施・評価、学生カンファレンス、まとめ発表、<br>入退院センター見学実習<br>【第 3 週】<br>事前自己学習と指導、ICU 見学実習、手術室見学実習、行動計画発表、看護技術の見学・介助<br>学生カンファレンス、学内実習（実習内容の振り 返りと個人面接） | 実習<br>詳細については、実習要項を参照すること。 | 課題については、前期定期試験後に提示する。 | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |
| 4 | | | | |
| 5 | | | | |
| 6 | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 7 | | | | |
| 8 | | | | |
| 9 | | | | |
| 10 | | | | |
| 11 | | | | |
| 12 | | | | |
| 13 | | | | |
| 14 | | | | |
| 15 | | | | |
| 16 | | | | |
| 17 | | | | |
| 18 | | | | |
| 19 | | | | |
| 20 | | | | |
| 21 | | | | |
| 22 | | | | |
| 23 | | | | |
| 24 | | | | |
| 25 | | | | |
| 26 | | | | |
| 27 | | | | |
| 28 | | | | |
| 29 | | | | |
| 30 | | | | |

| | |
|---|---|
| 理解に必要な予備知識や技能 | 基礎看護技術、看護過程の展開、看護倫理など、患者・家族に対して実施する看護に必要な知識・技術・態度について振り返り、観察および清潔援助技術については確実に実施できるよう自主的に練習を行い実習に臨みましょう。特に、成人看護学演習で行った技術演習「手術直後観察と援助」、「術後の離床」は動画および演習資料を確認しておきましょう。 |

| | |
|---|---|
| テキスト | 看護診断ハンドブック<br>成人急性期看護方法論、救急クリティカルケア看護学、看護形態機能学、疾病総論・各論、臨床検査などで使用したテキストや資料 |
| 参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介 | 成人急性期看護方法論や成人看護学演習、看護形態機能学、疾病総論・各論、臨床検査などで使用したテキストや資料を参考にすること |
| 授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ | 成人急性期看護学実習は看護展開が速いことから、看護形態機能学、疾病学総論・各論、成人急性期看護方法論の事前学習を十分に行って実習に臨んでほしいと思います。<br>実習に関連した課題を、事前に提示します。<br>実習に必要な看護技術を練習し、習得しておきましょう。<br>実習中は健康管理に十分に気をつけるようにしましょう。<br>＊ 臨地にて実習を行う予定ですが、学内にて対面実習あるいは遠隔実習となる場合は指示いたします。 |
| 達成度評価に関するコメント | ・達成度評価は、レポート（実習記録）46%、その他（看護実践と実習態度）54%により評価を行います。<br>・患者のアセスメントそして看護計画の立案を行い、根拠に基づいた看護実践を目指すため、看護実践および実習態度は実習記録と密接に関連しています。<br>・「看護学実習要項」の成人急性期看護学実習の実習目的と実習目標 9 項目について、学生の自己評価、臨床指導者による評価、看護教員の評価により総合的に評価します。 |